

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡 真紀

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	徳岡 真紀			
期 間	令和3年11月4日（木）～11月5日（金）			
視 察 先	公益財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎2-13-1			
視 察 用 務	市町村議員研修 議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開			
視察先対応者	早稲田大学名誉教授 北川正恭 氏 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村 健 氏 他			
概要及び所見	<p>多くの地方議会が議会改革への取組に着手しているが、新型コロナウイルスによりこれまでの常識が通用しなくなった中、より柔軟性の高い議会のあり方が求められている。住民の関心を高め、二元代表制の一翼を担う議会としてさらなる役割を果たすために、議会改革を進めなければならない。地方自治の現状、国の法制度の変化、人口減少による地域の変化など、議会への住民参加、情報公開に関して、先進事例の紹介を聞き、意見交換等を通じて理解を深め、ダイアログを用いた演習を体験し、会議や議員間討議の進め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>まず、三次にもゆかりのある早稲田大学の北川正恭氏の講演があった。コロナ禍だからこそ、やってみる。動いてみる。まねをする。という言葉が印象に残っている。</p> <p>事例紹介 1、「まずやってみよう」の地方議会 ～先例主義にこだわらない活性化～ 京都府精華町議会 佐々木雅彦</p>			

10年前には追認議会といわれていたが、議会基本条例を制定してから、様々な取り組みで、目的である、「開かれた議会」の実現に向けて取り組んだ。4つの柱を中心に具体的に取組まれた。「住民とともに学び、考え、実践する」というスローガンを元に、住民参加の研修会、ワールドカフェ方式による議会報告会、町のイベントに議会ブースを出店する飛び出せ議会！という取り組みに、とても共感した。

また、常に原点に戻って考えるという実践をされていて、中でも、「お互いにリスペクトして「チーム議会」として機能していますか？という問いかけは私も実践していきたい。

2. 議会改革の取り組み報告

大阪府箕面市議会 中嶋三四郎氏の報告では、政策提案型の議会運営を目指して具体的にタイムスパンを決めて動かれていた。実践を重視した議会改革ということで、まずは、議会だよりのリニューアルや議会基本条例へのパブコメ募集など、市民との距離をしっかりと縮める取り組みを行われた。次に議会のICT化として、タブレット端末の導入から、インターネット中継まで動画のコンテンツ等を充実させた。三次市ではICTの活用は非常に早かったが、現状では、タブレットを使って自宅等からリモートでの委員会参加などを行っている自治体も出てきており、多様な人材の確保を行っていく上でも、三次市議会もICT活用に関しては、アップデートが早急に必要であると感じた。

また、どの先進議会でも、委員会の充実が図られており、常任委員会をしっかりと機能させることが三次市議会の議会改革において一丁目一番地なのでは、と感じた。

特に広報広聴常任委員会では、市民を巻き込む工夫や、伝える工夫など、ICTの活用を含めて、しっかりと取り組んでいく必要があると感じた。私自身も広報広聴常任委員として、今年度さらに様々な提案を行い、条例改正も視野に入れて委員会のリモート対応ができるよう、次の子育て介護が必要な議員のためにも、しっかりと提案していきたい。

三次市でお世話になった北川先生も、とにかく先進地のまねをしてやってみる。そして軌道修正していくという繰り返して議会改革が進んでいくとおっしゃっていた。

まずはよいところをまねて、三次市議会スタイルをつくっていくという作業が必要だと感じた。